

A. 学校等施設の耐震状況について(Is, Iw)

1. 学校等施設の耐震化について

平成7年1月の阪神・淡路大震災、平成23年3月の東日本大震災は甚大な被害を広範囲にもたらしており、全国的にも建築物の耐震改修の促進が進められているところです。特に学校等施設は、児童生徒等が一日の大半を過ごす授業・生活の場であるとともに、災害時には地域住民の臨時避難場所となる重要な役割を担う施設です。

葛城市においても、合併以前より各学校施設等の耐震化に取り組んできました。平成27年度には小学校校舎1棟の増築及び幼稚園園舎1棟の耐震補強工事が、平成28年度には幼稚園園舎1棟の増築が完了しましたので、平成29年1月31日現在の耐震化状況を公表します。

2. 耐震化状況について

学校等施設の状況

(平成29年1月31日現在)

		校 園 数	全 棟 数	昭和56年5月以前の建築棟数	耐震診断実施済棟数		耐震化率
					改修不要の棟数	改修済の棟数	
小 学 校	校 舎	5 校	26	18	5	13	100.0%
	体育館		5	3	0	3	100.0%
	(小計)		31	21	5	16	100.0%
中 学 校	校 舎	2 校	13	10	3	7	100.0%
	体育館		4	1	0	1	100.0%
	(小計)		17	11	3	8	100.0%
小中学校	(合計)	7 校	48	32	8	24	100.0%
幼 稚 園	園 舎	5 園	10	4	0	1	70.0%

(注)

- ① 耐震対策の調査対象建築物とは、昭和56年5月以前(旧耐震基準)に建築された非木造建築で、延床面積が200㎡以上または2階建て以上の施設が対象となります。 ※上記、幼稚園には木造2棟が含まれています。
- ② 改修不要の棟とは、耐震診断結果が基準値以上の建築物です。

B. 棟別の耐震状況について(Is、Iw)

(平成29年1月31日現在)

学校名 幼稚園名	棟番号	棟名	構造区分	階数	建築年月	延床面積 (㎡)	耐震診断状況			改修状況等
							2次診断(Is値)	2次診断(Iw値)	優先度調査	
新庄小学校	①	管理棟	R	3	S43/11	1,311	0.43	0.73		改修済
	②	北中棟	R	2	S43/3	814	0.57	1.17		改修済
	③	南中棟	R	2	S43/3	837	0.47	1.03		改修済
	⑧	北棟	R	2	S49/3	983	0.85	1.10		改修不要
	⑩	体育館	R	2	S61/2	1,177	—	—	—	新耐震基準
	⑫	北棟東	R	2	S49/3	100	0.75	2.56		改修不要
	⑬	南棟	R	3	H18/3	1,722	—	—	—	新耐震基準
忍海小学校	②	北西棟	R	2	S47/3	219	0.28	0.97		改修済
	④	南棟	R	2	S47/3	1,292	0.68	2.36		改修済
	⑥	体育館	S	2	H4/2	1,228	—	—	—	新耐震基準
	⑨	北東棟	R	2	H21/2	1,617	—	—	—	新耐震基準
	⑩	東棟	R	3	H21/2	663	—	—	—	新耐震基準
	⑪	西棟	R	2	H21/2	220	—	—	—	新耐震基準
新庄北小学校	①	南棟	R	3	S52/4	1,357	0.63	1.00		改修済
	②	東棟	R	2	S52/6	624	0.45	1.30		改修済
	③	北棟	R	3	S52/6	1,113	0.58	1.00		改修済
	④	体育館	R	1	S52/6	509	0.77	0.80		改修済
	⑩	南西棟	R	3	H27/8	419	—	—		新耐震基準
磐城小学校	①	南棟	R	3	S41/12	1,221	0.28	0.33		改修済
	③④	昇降口棟	R	2	S41/12	180	0.82	3.16		改修不要
	⑤	南中棟	R	2	S42/12	1,385	0.34	1.16		改修済
	⑪	北中棟	R	3	S53/8	1,987	0.49	0.73		改修済
	⑫	トイレ棟	R	3	H9/8	22	—	—	—	新耐震基準
	⑬	体育館	R	2	S55/2	1,084	0.32	0.50		改修済
	⑯	北棟	R	4	S59/12	708	—	—	—	新耐震基準
當麻小学校	⑬	南西棟	R	3	S55/3	698	0.90	3.10		改修不要
	⑭-1	北東棟	R	3	S50/11	996	0.58	1.97		改修済
	⑭-2	トイレ棟	R	3	H9/8	22	—	—	—	新耐震基準
	⑯	体育館	R	2	S53/3	863	0.21	0.24		改修済
	⑰	北西棟	R	3	S55/3	827	0.55	1.03		改修済
	⑱	南東棟	R	2	S50/3	1,249	0.90	3.10		改修不要

B. 棟別の耐震状況について(Is、Iw)

(平成29年1月31日現在)

学校名 幼稚園名	棟番号	棟名	構造区分	階数	建築年月	延床面積 (㎡)	耐震診断状況			改修状況等
							2次診断(Is値)	2次診断(q値)	優先度調査	
新庄中学校	①-1	南東棟	R	4	S45/10	2,293	0.28	0.97		改修済
	①-2	南西棟	R	4	S57/2	1,831	—	—	—	新耐震基準
	③-1	北東棟	R	3	S45/3	1,925	0.29	1.00		改修済
	③-2	北西棟	R	3	S45/10	1,122	0.27	0.93		改修済
	④	昇降口棟	R	2	S45/10	216	0.62	2.13		改修済
	⑬	体育館	S	2	S57/2	1,500	—	—	—	新耐震基準
	⑭	武道場	S	2	H9/3	725	—	—	—	新耐震基準
白鳳中学校	①-1	北中棟	R	4	S48/3	1,503	0.49	1.03		改修済
	①-2	北西棟	R	4	S48/12	917	0.35	0.93		改修済
	①-3	北東棟	R	3	S48/12	1,057	0.32	1.30		改修済
	②	南中棟	R	2	S48/12	948	0.72	1.13		改修不要
	④	体育館	R	2	S50/2	1,365	0.32	0.40		改修済
	⑩	南東棟	R	3	S56/2	437	—	—	—	新耐震基準
	⑪	南東棟	R	3	S58/10	306	—	—	—	新耐震基準
	⑭	南西棟	R	2	S48/12	743	0.75	1.27		改修不要
	⑮	昇降口棟	R	2	S48/12	193	0.97	1.12		改修不要
新庄幼稚園	①	園舎	S	1	H26/3	1,046	—	—		新耐震基準
	⑤	遊戯室棟	S	1	H21/2	259	—	—		新耐震基準
忍海幼稚園	①	全棟	S	1	H4/2	727	—	—		新耐震基準
新庄北幼稚園	①②③	全棟	S	1	S52/4	374	0.36	1.46		改修済
	④	西園舎	S	1	H29/1	94	—	—		新耐震基準
磐城幼稚園	①	北園舎	S	1	S54/3	480	0.11	0.43		
	②	遊戯室棟	W	1	S54/3	276	0.09	—	—	
	③	南園舎	S	1	H2/3	251	—	—	—	新耐震基準
當麻幼稚園	②	北園舎	S	1	S57/1	374	—	—	—	新耐震基準
	③④	東園舎	W	1	S54/3	208	0.25	—	—	

B. 棟別の耐震状況について(Is、Iw)

(平成29年1月31日現在)

学校名 幼稚園名	棟番号	棟名	構造区分	階数	建築年月	延床面積 (㎡)	耐震診断状況			改修状況等
							2次診断(Is値)	2次診断(q値)	優先度調査	

【用語説明】

構造区分	RC	鉄筋コンクリート造
	S	鉄骨造
	W	木造
耐震診断状況	Is値	Is値(アイエス値)とは、「構造耐震判定指標」と言われ建築物の耐震性を示す値であり、建築物の柱と壁の強度と粘り強さや経年等を考慮して計算される指標です。なお、学校施設についてはIs値0.7以上が耐震性を満たす数値です。 Is値=0.3未満 …… 地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。 Is値=0.3~0.6未満 …… 地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性がある。 Is値=0.6以上 …… 地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。
	Iw値	Iw値(アイダブリュ値)とは、これも「構造耐震判定指標」であり木造建築物の耐震性を示す値です。なお、学校施設についてはIw値1.0以上が耐震性を満たす数値です。 Iw値=0.7未満 …… 地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。 Is値=0.7~1.0未満 …… 地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性がある。 Is値=1.0以上 …… 地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。
	q値	q値(キュー値)とは、保有水平耐力(建物が水平方向に受ける力に耐えられる力)に係る指標のことで、q値1.0以上が目標数値です。
	優先度調査	いずれの施設から耐震診断を実施すべきか、その優先度を経年、階数、溶接状況等により簡易に判定する調査です。また優先度ランクは優先度調査の結果を5段階分け判別される指標で、優先順位はランク1の方が高くなります。
改修状況等	改修済	耐震補強工事により、目標数値以上に改修されました。
	改修不要	耐震診断結果においてIs値が0.7以上、かつq値が1.0以上あった建物です。
	新耐震基準	建築基準法等で地震に対して建物をどのようにするか定められていますが、以前の耐震基準と区別するために昭和56年に改正されたものを「新耐震基準」と呼んでいます。